



ふじさきの教育理念

ふるさと愛 自主・自律 参画 共生

藤崎小だより

令和4年11月24日
第8号



「ありがとう」がいっぱいの毎日に…

今週月曜日の朝は、今年度6回目のスマイルタイムがありました。スマイルタイムでは、よりよい人間関係を築くために大切なスキルなどについて、基本的には全校同じ内容で学んでいます。

今回のテーマは、「新しい学校で友達をたくさんつくるために」でした。最初に、「どんな人と友達になりたいか」についての考えを出し合った後、自分の姿は自分ではなかなか見えないけれど、友達をたくさんつくるためには、まずは自分自身がそうした人になる（である）ことが大切であり、そのためには、自ら「行動」や「言葉」について振り返り、よりよいものにブラッシュアップしていくことが必要であることをみんなで考えたところです。

特に「言葉」については、これまでのスマイルタイムや学級指導の中でも「チクチク言葉」や「ふわふわ言葉」について考える機会を繰り返し持つようにしてきました。しかし、残念ながら、子ども達の間では、「きもい」「うざい」は当たり前のように使われ、ちょっとした気持ちの行き違いでも「死ね」という言葉が出てしまう子もいるというのが現状です。こうしたことを踏まえ、今回のスマイルタイムの最後では、生徒指導部の先生方発案の「ありがとうの花キャンペーン」が子ども達に提案されました。「ありがとう」をたくさん送り合うことで、温かい関わりを増やし、心地よい生活ができるようにできないだろうかと考えたのです。「ありがとう」を言ったら、また言ってもらったらカードに描かれた花びらに色を塗っていくという活動です。もちろんカードに色を塗るために「ありがとう」を言うというのはちょっと違うわけですが、まずは、これをきっかけに「ありがとう」と言ったり言われたりするもののうれしさや心地よさをたくさん感じてくれたらと思っています。

言葉には言霊が宿ると言われます。よい言葉がよい人生をつくるという人もいます。ご家庭でも、いつも以上に「ありがとう」の一言をみなさんで意識してみたいはいかがでしょうか。



引用 【ツキを呼び運命を開く「ありがとう」は魔法の言葉】佐藤富雄著 宝島社より

「ありがとう」と口にするとなぜか心が潤う。緊張がほぐれ、ストレスが消える。笑顔が生まれ、元気が出る。ありのままの自分を素直に受け入れ、まわりの人のことも受け入れる。人生のすべてが
いとおいしく思えるようになる。そしてまた「ありがとう」は運を開いてツキを呼び、夢や望みを叶えてくれる。

サイア/タイプ(青写真)で学校の思い出写真をつくろう



閉校記念事業の一つとして、6年生が写真家の先生を講師に学校の思い出写真をつくるワークショップを行いました。ネガを特別な液をつけた紙と重ねて光に当て、水で洗う作業を通して出来る青色の写真は、いつも見ている写真とは違い、「思い」が心にしみてるようでした。図工室から体育館前廊下に展示してあるので、よろしければ見にいらしてください。(12月中頃まで)

地域の皆様に支えていただきながら・・・

今年度最後のふれあいボランティア

10月27日（木）、1年生の子どもたちと地域の方々がふれ合いながら、一緒にボランティア活動を行いました。地域の方々が学校の柿を収穫し、子どもたちが嬉しそうにかごに入れていきました。

作業が進むごとにテンポも速くなり、収穫した柿がかごいっぱいになると、とても満足そうな表情を浮かべていました。そして、作業後は、子どもたちが地域の方々に歌をプレゼントし、温かい拍手をいただきました。心温まる時間でした。

地域の皆様、ご協力いただき、誠にありがとうございました。



キャリア講話



11月8日（火）、遊佐町地域おこし協力隊の中島悠さんを学校にお招きし、子どもたちにお話をさせていただきました。

隊員として活動する中で、遊佐にとって何が必要なの
貢献できることは何かを考え、様々なことに取り組んで
ことを知りました。遊佐町の新たな特産品の開発、遊佐町

◆◆◆藤崎っ子の活躍◆◆◆

☆読書感想文コンクール

入選 5年 石垣 埜乃さん

☆遊佐町ロードレース大会

5年以下女子 1位 5年 齋藤 萌香さん

5年以下男子 4位 5年 青山 陽飛さん

5年以下男子 6位 2年 青山 凱飛さん

☆遊佐町標語コンクール

「いじめ防止」

優秀賞 1年 真島 秀翔さん

「いやなこと いわない やらない わらいあおう」

※庄内地区いじめ防止標語 佳作

「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」

優秀賞 5年 石垣 埜乃さん

「早寝して 明日を 百倍 楽しもう」

☆庄内空手道選手権大会

松の学習～合同植林

藤蔵祭の翌日11月11日（金）、高瀬小学校児童と藤崎小学校の4、6年生が合同で、クロマツの植林体験を行いました。

活動を通して先人の労苦の一端を学び、先人の思いにふれることができたのではと思います。これからも、具体的な活動を通して、地域の良さの一つである黒松林への理解を深め、先人の思いを継承して欲しいと願っているところです。

